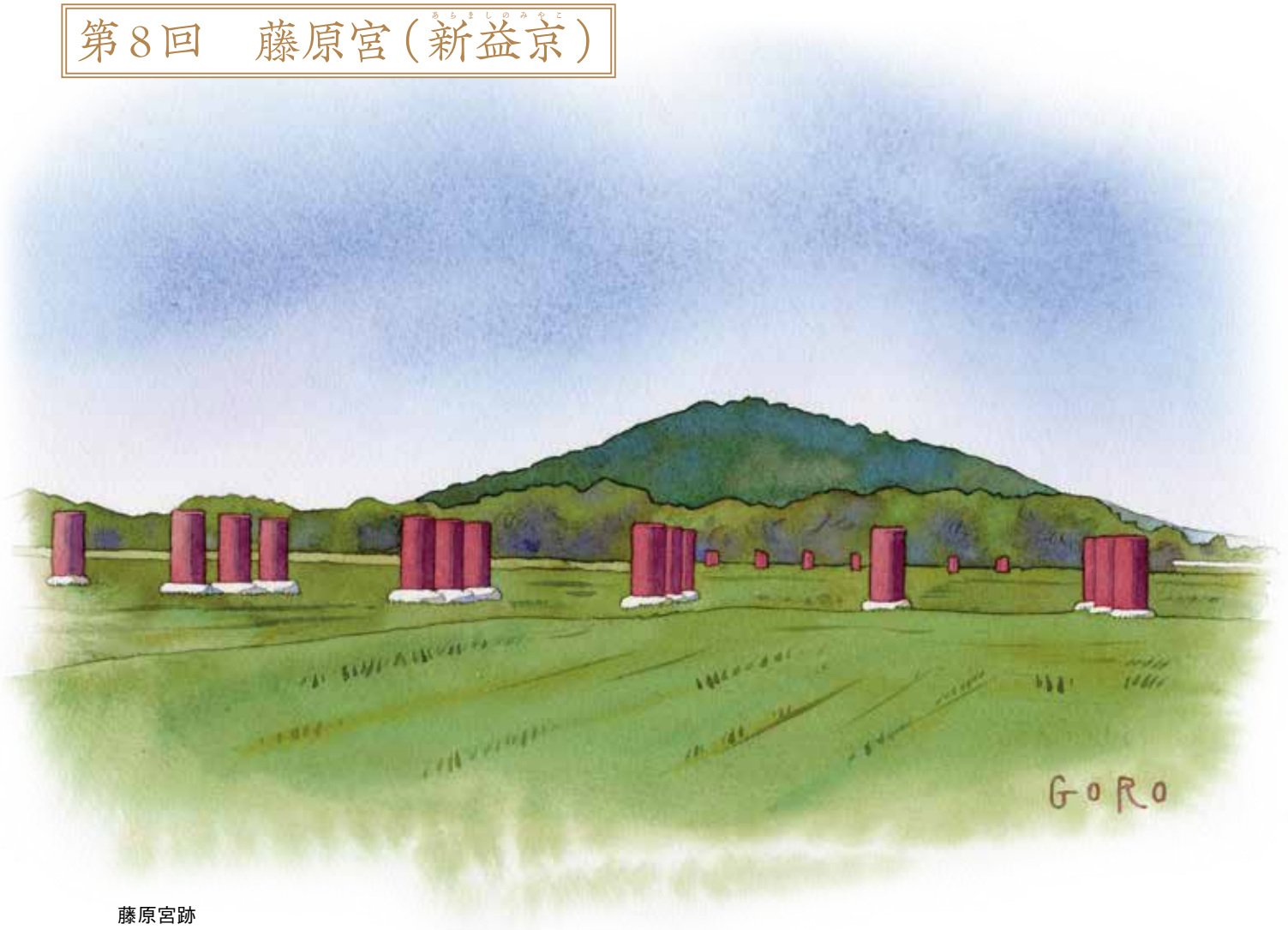
第8回　藤原宮（新益京）



藤原宮跡

「飛鳥・藤原の宮都」がユネスコの世界文化遺産に登録された。様々な遺跡が含まれているが、そのなかのひとつが、藤原宮（新益京）で、ここは日本初の都城（城壁に囲まれた首都。日本の場合、城壁はないが）でもある。

本誌10月号「古代のハイウェイ」の回にお伝えしたように、民に公平に土地を配るためには正確な物差しが必要で、その原器となるのが、都城だ。

藤原宮はヤマトを代表する霊山・大和三山に囲まれている。その大和三山の頂上をつなぐと正確な二等辺三角形を描くが、宮はその「垂心」に位置する。意図的な配置だ。

藤原宮造営を発案したのは天武天皇で、天武崩御ののち、遺志を継承し指揮をとったのが息子の高市皇子だった。ところが、遷都後、宮から真北の位置に、天智天皇陵が造営された。これはクーデターに近い事件だった。と言うのも、天智天皇は天武天皇とは犬猿の仲にあったし、天武の王家は奈良時代の終わりに天智の王家に入れ替わるのだが、天智の王家は代々の天武の王家の菩提を弔うこともせず、無視し続けている。

藤原宮の主は文武天皇で天武天皇の孫だが、母系を辿ると天智天皇につながる。親天智派の面々が、あえて藤原宮から見て北極星（皇帝）の位置に当たる場所に天智陵を造り、観念上とはいえ「文武天皇の宮に君臨」してみせたわけだ。



関 裕二

歴史作家、武蔵野学院大学日本総合研究所のスペシャルアカデミックフェロー。著書に『古事記の正体』（新潮新書）、『アマテラスの正体』（新潮新書）など。

藤原宮の所在地
奈良県橿原市



絵：佐々木悟郎